

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2016.1 睦月

162

鳥取県内の生涯学習講座が満載！

ページ
1 ★特集

地元で大好きな仲間たちと 大好きなまちの未来をつくる！

株式会社トリクミ

- 3 ★ 県内唯一の『むら』で、女性の『力』を活かします！
日吉津村自主的な女性の会
- 4 ★ とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報（1・2月）
- 26 ★ 連携講座 おすすめピックアップ
●こども未来フォーラム
●あいサポート・アートとっとり展
- 27 ★ 鳥取県立生涯学習センター（県民ふれあい会館）
- 29 ★ 船上山少年自然の家・大山青年の家
- 30 ★ とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」
★ 第5期鳥取県自然保護ボランティア
- 31 ★ お父さんのための子育て応援手帳
★ 放送大学鳥取学習センター「出前講演会」



『切り絵シリーズ』仁風閣と山茶花（鳥取市）

冬枯れの風景を鮮やかに彩る山茶花は、昭和43年に選定された鳥取市の木
ホッとしますね。

絵・文：紙原 四郎 氏

地元で大好きな仲間たちと 大好きなまちの未来をつくる!



田舎エンターティメント
プロジェクトで地域を
つなぐ

株式会社トリクミ

鳥取県東部に位置する八頭町隼地域。若桜鉄道隼駅正面にある地産地消飲食店 & コミュニティスペース「HOME 8823」を拠点に活動する元気な若者たちがいると聞いて取材に行ってきました。

代表の古田琢也さんにお話をうかがいました。



株式会社トリクミ

代表 古田 琢也さん

楽しい事は自分たちでつくりたい！ 八東中学校の同級生で「トリクミ」スタート！

僕が東京から帰省したとき、地元の仲のいい友達が「鳥取はおもしろくない、つまらん」って暗い顔で言ったんですよ。僕は「鳥取っていいなあ」と思っていたので、ショックでした。

その時、「どうして自分は東京でデザインの仕事をしているのか？デザインを通じて何かできないかな」と考えました。自分自身もそうですが、鳥取から若者が出て行って、どんどん人口も少なくなっています。住んでいるところがつまらなかったら、自分たちで楽しくすればいい、もっと若い世代の人たちに、「鳥取っておもしろいことしてるな」とか「かっこいいな」と思ってもらえるような活動をしていきたいという気持ちから仲間を声掛けしました。

平成24年に八頭町立八東中学校の同級生を中心に、8人くらいで「トリクミ」というグループを結成し、東京には自分ともう一人のメンバーがいて、地元のメンバーと連携して鳥取の食をPRするイベントや地元で採れた農産物でピクル



農の交流イベント

スなどの商品開発・販売、情報発信などいろいろな活動をしていました。その頃はみんなで楽しみながら社会的なことをやってみようという感じでしたね。

みんなでリノベーションした 「HOME8823」

「トリクミ」の活動をするうちに、地域の人から「隼」を拠点に「農」の交流場所をつくりたいと相談がありました。そして、小さくてもいいから経済活動をしよう、使われていなかった旧 JA 鳥取いなば隼支店の建物をリノベーションし、地産地消の飲食店をつくることになりました。

費用は借り入れや、一部を「クラウドファンディング」という手法で集めました。ネットやSNSの力って大きいですね。クラウドファンディングの6~7割は県外から集まりました。使われなくなった建物がアイデア次第でその価値を変えていけるし、建物がいくらでも蘇るんです。仲間や地域を巻き込んで改装作業にもたくさんの人に手伝ってもらいました。そうすることで、少しでも「自分がここに関わっていたんだ」と思ってもらえたらうれしいじゃないですか。

平成26年4月に1階は地産地消の飲食店、2階は貸し切りイベントやライブ、同窓会、誕生会などに利用できるコミュニティスペースとして完成し、名称を隼駅にちなんで「HOME8823」として開店しました。



みんなでリノベーション



完成したHOME8823

稼げる田舎を目指し 「株式会社トリクミ」を設立

任意団体である「トリクミ」の活動を継続しながら、私が代表となり、HOME 8823店長の北村と料理長の竹内の3人で平成27年4月に「株式会社トリクミ」を設立しました。リスクを払ってでも株式会社にしたのは、お金がないと継続できないと考えたからです。

地域づくりも楽しいだけじゃ続かないと思うんです。僕らが利益を出して周りの人から「成功してるな」って思ってもらったら、「じゃあ、この近くに店を出そうか」と思う人も出てくるかも知れないですし、そうなったらどんどん地域が盛り上がると思います。デザイン業もやっているの、今後はデザインを活かした取組や宿泊業などもありえるかもしれないですね。いずれは地域で雇用も生んでいきたいので、会社として腹をくくってやっていこうと思っています。そのためにも僕らがちゃんとしていかないといけないと思っています。5年後、失敗したとしても33歳。十分やり直せますしね。

二宮尊徳の言葉に「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」とありますが、まさにそれですね。稼げていないのに「地域づくりはおもしろいぜ、一緒にやろうぜ」と言って人を巻き込むのは無責任だと思うので、やっぱりきちんと稼げる会社になっていきたいですね。

実は隼は「隼ライダーの聖地」ということで、八頭町で唯一、県外からたくさん人が訪れる地域なんです。それと鉄道ファンの方も多いです。温泉でも、自然でも、食でもない理由で県外から人がたくさん来てくれる隼地域。このエリアの特色を生かして今後どのように活動を展開していくかが勝負どころだと思っています。

若者たちが熱く語る 「蔵BAR」

※蔵は寒い！
冬場は休止し春に
再開の予定です。

気軽に人と人が知り合える場所を作りたくて、平成27年6月から「トリクミ」のメンバーと一緒に「月に一度の立ち飲み屋 蔵BAR」というイベントをHOME 8823の隣の蔵で始めました。いろいろな分野で活動している方をパーティーとして招き、前半はプレゼンで、その後はテーマに沿って参加者とお酒を片手に自由に語り合います。

僕は鳥取って意外に面白い人が沢山いると思っているんですが、地元の人たちは、どういう人がいるかなんてあまり興味もないし、わりと知らないんですね。これまで若い人たちが語る場所ってというのがなかったと思うんです。立場や年齢

を超えてわいわい集まっているところから、新しいことが始まっていくような感じがしていて、この「月に一度の立ち飲み屋 蔵BAR」も大切にしていきたいですね。

8月の「蔵BAR」におじゃましました どなたでも参加可能！

この日のパーティーは八頭町地方創生監の角園太一さん。参加者は、地域内外から集まった若者がほとんど。職業は起業家、農家、公務員、会社員、医師などさまざま。地域づくりを真剣に考えている人が集まり、好きなお酒や食べ物を片手に楽しい雰囲気の中、プレゼンがスタート。その後、参加者同士で「地域はどうしたらおもしろくなるのか！」と熱く語り合いました。この日集まった参加者からもっと話したいという声上がり、別日程でまちづくりをテーマにワークショップを開催したそうです。蔵BARでの出会いが着実にまちづくりへとつながっています。



8月の「月に一度の立ち飲み屋 蔵BAR」

みんなで掃除し、かつてJAの倉庫だった米蔵がとても雰囲気のいい空間に変身！
駐車場有。若狭鉄道で往復してもOK。

「このまちに生まれてよかった」と言われるものを残したい！

今、僕は東京でもフリーランスでデザイン会社をしていて、鳥取と東京を往復する生活なので、HOME 8823が運営できているのは店長と料理長のおかげです。そして地域の人が自分たちの活動を期待してくれ、温かく育ててくれているからだと思います。自分たちだけだったら、絶対にここまでできてないと思うので、今度はもっといろんなことをして、まちに恩返ししていきたいです。

始めの頃は「若いモンがなんかやっとなるわ…」という目で見られていたのが、今は店の前を通る人がみんなあいさつをしてくれたり、世間話をしてくれたりして、地域で交流が生まれています。そういうちょっとした変化が広がっていけばおもしろいまちになるし、住んでいて気持ちのいいまちになるだろうと思っています。

そして、自分たちの子どもや孫にも「このまちに生まれてよかったね」と言ってもらえるようなものを残したい。それが今の一番のモチベーションですね。

これからも鳥取と東京をつないで、大好きな仲間と一緒に大好きなまちの未来をつくれるように頑張ります！

取材を終えて

28歳の若き3人。お話を聞いていて、地元をこよなく愛しチャレンジを続ける姿にエールを送りたくになりました。

いろいろな人とつながり、鳥取の田舎の魅力を発信する「株式会社トリクミ」。今後の活躍が楽しみです。

県内唯一の『むら』で 女性の『力』を活かします!



= 日吉津村自主的な女性の会 =

🍌 地域の女性が心豊かに暮らせるように

日吉津村は、鳥取県西北部に位置し、県内唯一の村です。北は日本海に面し、3方は米子市に囲まれています。

昭和48年に村の婦人会が解散してから、女性の手による自主的な活動がされず、それまで婦人会が取り組んできた活動を継承する方法も場もありませんでした。

そんな中、昭和60年に県婦人指導者研修会の修了者9名で「あすなろ会」を発足。日吉津村教育委員会主催の講演会への参加や同会が主体となって、村民婦人問題意識調査を実施しました。昭和63年8月、地域の女性がもっと親しくふれ合い、語り合い、より心豊かに暮らせることを願って、女性組織を結成しようと準備会を設立し、準会員を募ったところ30名が集まりました。

平成元年9月、会員を募ったところ84名もの申し込みがあり「日吉津村自主的な女性の会」が誕生しました。

活動を開始してから、今年で26年目になります。

🍌 環境・福祉・教育3部会で検討、全員で活動

環境、福祉、教育の3つの部会を組織し、村の行事への参加はもちろん、地域でのボランティア活動や学習活動を行っています。

3つの活動の中でも、特に環境に関する活動に力を入れています。

平成3年に日吉津海岸周辺を清掃する「クリーン作戦」を開始。毎年、4月～11月の第1日曜日に清掃活動をしています。

平成9年には、当会と他団体が合同で村規模の「海岸クリーン作戦」を実施し、約200名の参加がありました。以降、現在まで4月と5月の年2回は女性の会単独ではなく日吉津村と合同で清掃を行っています。現在では約500名が参加する村全体の活動にまで発展しています。

また、県内の廃棄物中間処理場の見学を契機に、生ごみの資源化やごみの分別収集活動等の環境保全活動も行っています。そして、女性の会のメンバーで環境問題についての研修会も積極的に行い、学習を深めています。

これらの取組が評価され、平成12年に地域環境美化功績団体等知事表彰、平成25年に地域環境美化功績者環境大臣表彰を受けました。



現地見学：布・プラスチックが再利用されリサイクルされる様子を見学



クリーン作戦：女性の会のメンバーで日吉津海岸を清掃



勉強会：日野川上流域の「日南町」と下流域の「日吉津村」について学習

🍌 現在の状況と今後の課題

現在、会員は「自主的な女性の会」の活動だけでなく、女性の意見が取り入れられるように村の各種委員になったり、村内のいろいろな団体等で大活躍しています。

しかし、会員の高齢化と後継者不足に頭をかかえています。これまで日吉津村の女性たちが、一生懸命形にしてきた「自主的な女性の会」を次の世代へも引き継いでいくため、魅力ある活動をしていきたいと思います。

(寄稿：日吉津村自主的な女性の会 事務局長 ^{まつとみみこ} 松本二子さん)

【日吉津村自主的な女性の会会則第3条 目的】

- 🍌 日吉津村の女性が手をつなぎましょう
- 🍌 生涯学ぶ心を持ち続けましょう
- 🍌 お互いの人格を尊重しましょう
- 🍌 男女共同参画型社会を築き、人間性豊かな子どもを育てましょう